

## 第223回 「元気に百歳」クラブ・俳句サロン「道草」の句会開催

7月22日(土)、関東甲信地区も梅雨が明けました。昨年比べて1か月ほど遅かったのでしょうか。ここ数日の暑さは尋常ではありません。ひっきりなしに熱中症防止のニュースが流れます。昨日辺りから蝉の鳴き声も、はっきり聞き分けられるようになりました。いよいよ真夏の始まりです。体調を整え元気にこの夏を乗り越えましょう。

今月も本間傘吉さんが、見事な投句一覧表を作ってくださいました。そして、句会が終わり、皆さんの選句が集計されたところで、見事なイラスト入りの「まとめ」を作ってくださいました。今月のイラストは水に浮かぶ青紅葉の波紋とその下で泳ぐ金魚でした。傘吉さん、本当にいつも有難うございます。

7月の句会は14日(金)に開催されました。約束どおり「兼題の提示」はなく、各自が歳時記の中から、適切な7月季語を勘案し3句を詠みました。満足な結果を得られたでしょうか。今月の投句参加の方々は下述の通りです。そして、ご参加の皆さんが選ばれた天賞句並びに優秀句は下述の通りです。なお、句会記録の記述方法は、天賞推挙と推挙のコメントは従来通りですが、兼題ごとに選んでいました最多得票賞(☆印)は、選句された数の多い上位三句を最多得票賞(☆印)としました。

今月の投句参加(17名)

芦川創風さん、板倉歌多音さん、井上蒼樹さん、太田一光さん、奥田和感さん、  
金田月草さん、君塚明峰さん、木村栄女さん、坂上まさあきさん、辻 柴楽さん、  
手嶋錦流さん、中島懂岳さん、原 晶如さん、船戸清助さん、本間傘吉さん、  
森田多佳さん、芦尾白然。

リアル句会への参加(11名)

蒼樹さん、和感さん、月草さん、明峰さん、栄女さん、柴楽さん、錦流さん、  
晶如さん、傘吉さん、多佳さん、白然。

天賞句並びに優秀句

◎『地下収納妻の遺した梅酒飲む』	創風	天2㊦4
◎『貴船川床の涼風肌に沁む』	傘吉	天2㊦2
◎『いつ来ても井戸に瓜浮く祖母の家』	まさあき	天1☆6
◎『冷蔵庫とびらに貼りし禁三つ』	多佳	天1☆6
◎『夏服の駅員弾けり駅ピアノ』	栄女	天1㊦5
◎『鉢裏に寝ぼけまなこの守宮かな』	晶如	天1㊦5
◎『どの彼もハンサムになり夏帽子』	和感	☆7
◎『海青しづけ井うまし夏の雲』	歌多音	天1㊦3
◎『青田にも濃淡のあり白き雲』	明峰	天1㊦3
◎『片蔭に魅せられ見知らぬ町歩む』	明峰	天1㊦2
◎『ずつしりとトマト畑で熟しけり』	歌多音	天1㊦2
◎『夜の秋古き全集並びをり』	多佳	天1㊦2
◎『砂日傘脱ぎつばなしのスニーカー』	栄女	㊦4
◎『優しさは大仏おはす夏の空』	明峰	㊦3
◎『福相のかわはぎ剥ける手練の手』	栄女	天1㊦1
◎『熱き日や平和の礎名をなぞる』	清助	天1㊦1
◎『遠雷をびびりながらもペダル踏む』	柴楽	天1㊦1
◎『凌霄落花きざはしを装ひけり』	白然	天1㊦1

参加された総勢17名の方々が3句ずつ、合計51句を詠んだ訳ですが、そこから皆さんが優秀句と思われた5句を選んでいただきました。その結果、創風さんの句「地下収納妻の遺した梅酒飲む」が、天賞二つを獲得しました。亡くなられた奥様が、丹精込めて造られた梅酒です。元気倍増を願い、奥様を思い起こしつつ、ぐっと飲まれる情景が見えてくるようです。次に傘吉さんの句「貴船川床の涼風肌に沁む」も、天賞二つを獲得しました。天賞推挙のコメントに「京都の奥座敷貴船は市内と違って貴船の川床は涼しい。昔行ったことのある景色がうまく表現されている」と、ありました。一度も行ったことのない者には、ますます行ってみたいくなりました。

最多得票賞(☆印)は、7票を獲得した和感さんの句「どの彼もハンサムになり夏帽子」でした。街を歩いていまして、近頃はおしゃれな夏帽子姿が増えてきました。そんな中でも男たちが夏帽子のおかげで、みんなハンサムに見えるという句でしょう。与謝野晶子の歌「清水へ祇園をよぎる桜月夜こよひ逢ふ人みな美しき」が、ふっと浮かびました。

次にまさあきさんの句「いつ来ても井戸に瓜浮く祖母の家」が、天賞一つと最多得票賞(☆印、6票)を獲得しました。上五の「いつ来ても」には、「瓜のある季節(夏)は」が、省略されていると思いますが、祖母の心暖かい気遣いが胸にささります。次の多佳さんの句「冷蔵庫とびらに貼りし禁三つ」も、天賞一つと最多得票賞(☆印、6票)を獲得しました。なかなか守れない「禁〇〇」です。一体、三つが何だったのかに、票が集まったのではないのでしょうか。天賞推挙のコメントに「いまだに理解できない。でも作者の家のことが、わが家と似ていて、親しみを覚えた」とありました。

次に栄女さんの句「夏服の駅員弾けり駅ピアノ」が、天賞一つを獲得しました。上五の夏服が新鮮で、爽やかですね。天賞推挙のコメントに「休憩時間なのか、勤務明けなのか、着替えもせずにピアノの前に座って弾いている曲は何だろう。嬉しいことがあったに違いない」とありました。高得票でした。次に晶如さんの句「鉢裏に寝ぼけまなこの守宮かな」も、天賞一つ、高得票でした。庭で鉢裏を開けてみたら、守宮がでんと我が家を守ってくれている。それにしてもじっとして、寝ぼけているかしら……。何かホッとさせられる句でした。

次は歌多音さんの句「海青しづけ井うまし夏の雲」が、天賞一つを獲得しました。読むだけで眼前に海の見える食堂、或いはレストラン……が想定できます。そこで、頂いた好物のづけ井は、「美味しかったなあ」と。その至福の時間を倍加してくれる入道雲が、海には広がっています。読者に作者の元気一杯を伝えてくれる季語「夏の雲」が、この句を活かしました。次に明峰さんの句「青田にも濃淡のあり白き雲」と「片蔭に魅せられ見知らぬ町歩む」が、天賞一つを獲得しましたが、票数は3票と2票でした。前者は、鏡のように空の景を映す青田、空に浮かぶ白い雲が作用して、青田の水に濃淡が出来ている不思議な美をキャッチし、読者の共感を獲得しました。後者は「片蔭から離れられなくて、片蔭に沿って歩いて来ましたら、いつか見知らぬ町を歩いていましたよ」という句意になるのでしょうか。見知らぬ町を歩いている驚きと不思議がして、何処かお伽の町に迷い込んだ錯覚に囚われたのでは……。ミラクルな一句でした。

次に歌多音さんの句「ずつしりとトマト畑で熟しけり」が、天賞一つを獲得しました。歌多音さん、二句目の天賞獲得です。熟れているトマトの質感が「ずつしり」という副詞に込められています。天賞選者が、故郷で熟れたトマトを扱われた方であり、その実感を思い起こされての1票でしょう。次に多佳さんの句「夜の秋古き全集並びをり」にも、天賞が一つの投票がありました。使われた季語「夜の秋」を絶妙に古き全集のある書齋に向けられたのでしょうか。夜になって吹く風に、ふと感じられる秋の一瞬、その寂しさを見事にとらえました。

天賞は付きませんでした。栄女さんの句「砂日傘脱ぎつばなしのスニーカー」と、明峰さんはさらにもう一句「優しさは大仏おはす夏の空」が、比較的高得票でした。栄女さ

んの「砂日傘」の句は、脱ぎっぱなしにされたスニーカーは、履き主がどこへ行ってしまったかが読者の心に残るだろうし、明峰さんの「優しさ」の句は、やっぱり優しさは大仏さんのものかと、暑い鎌倉の大仏さんの空を思い起こしておりました。

句会では1票の投票で、それが天賞であると言うことが、ままあります。今回もそんな句が四句出揃いました。栄女さんの句「福相のかわはぎ剥ける手練の手」が、その一句目です。作者としては下五の「手練の手」に思いを込められたようですが、かわはぎを剥くその包丁捌きをアピールされました。二句目は清助さんの句「熱き日や平和の礎名をなぞる」です。この句を読むと、反射的に脳細胞に閃くのは、広島のパルコ公園が頭に浮かぶでしょう。そして二度と戦争は起こすまいと、心に誓うのではないのでしょうか。

次は柴楽さんの句「遠雷をびびりながらもペダル漕ぐ」です。一刻も速く辿り着こうとペダルを漕いでいる姿が見えてきます。中七の「びびりながらも」が、現代俳句ではどのように受け止められるのでしょうか。もう一つは、白然の句「凌霄落花きざしを装ひけり」です。凌霄花の落ちぶりは潔く見事です。派手な橙色が周囲を飾ります。それを詠みました。

新しい句会第一回目は、まずまずでした。本日の句会の終了後、奥田さんから「この新しい方式は如何ですか」との質問が問われましたが、もう少し続けてみなければ意見は言えないというのが正直なところでしょうか。ただ、以前に比べて「意見を交わすことが多くなってきた」のは事実ではないのでしょうか。俳句は面白いです。苦しいこともあります。楽しいこともあります。

暑い毎日ですが、次の課題に挑戦しましょう。そうでした。8月の「道草」はお休みでした。皆さん、ゆっくりお休み下さい。

(白然記)